

## 4000万人の頭痛 153

## 千夜一夜の頭痛物語

依然、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症  
 人体の免疫機構に悪影響を及ぼす

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu



新型コロナウイルス感染後に発症した帯状疱疹例

40代男性 左背部の帯状疱疹  
 このような症例では、同部位直下の硬膜もしくは脊髄などの内臓系に悪性腫瘍が潜在していないか後日精査が好ましい。

30代男性 右後頭部の帯状疱疹  
 帯状疱疹の発疹消失後も右後頭部に悪性腫瘍解離に伴う、突如の頭痛が生じないか経過観察が好ましい。

2ヵ月後に帯状疱疹を発症される方が後を絶たない状況も続いています。

頻回のワクチン接種を行っていたころにも帯状疱疹発症のリスクが論じられていました。自然感染では、ワクチン接種よりも多量の抗体が一気に産生されるため、限られた免疫グロブリンが、コロ

ナウイルスの抗体一色になる結果、他疾患の抗体産生量が減少します。小児期に水痘に罹患した人の約9割以上が人体に潜在しているとされる帯状疱疹ウイルス（水痘ウイルス）が再活性化して発症しやすいのではないかと考えられます。このウイルスは主に人体の神経節という神経のサテライトに潜在しやすいため、初期の約1週間は神経痛で発症することが多く、この段階で抗ウイルス薬を服用すれば皮疹まで至ることは少ないのですが、残念ながらこの段階で診断されることは未だ少ないようです。また、この帯状疱疹に対しては、未だ死菌作用のある薬剤はなく、抗菌作用すなわちウイルスを死滅させることはできないけれども、その活動を弱める薬剤しか存在しないため、発症後少なくとも72時間以内に投薬開始しないと、恒久的な神経障害（PHN: Post Herpetic Neuralgia）を残し、潰れるような痛みと後生付き合うことになりかねません。

帯状疱疹ウイルスは、皮疹を発症した神経領域の何等かの免疫異常を示唆している場合があり、発症部位直下の内臓に悪性腫瘍が潜在していることもあるため注意が必要です。また、頭頸部に発症した際には、同じ神経の分枝

が近傍の脳血管壁周囲にも分布しているため、血管壁から侵入し、最終的に脳血管解離など、脳血管に損傷を加え、生命予後に支障を来すこともあります。新型コロナウイルスに感染しないよう、人混みでは感染対策を怠らず、何よりも自己免疫を高めるよう、十分な睡眠と休息を心掛けましょう。

## Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、学校法人東京女子医科大学 評議員、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーフケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クロスアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。2024年6月号より、ANAグループ機内誌『翼の王国・TSUBASA -GLOBAL WINGS-』にて『雲の上の診察室』連載中。



新刊「ウルトラ図解 おとなと子どもの頭痛」  
 監修/清水俊彦  
 法研（本体1600円+税）  
 2月18日（火）発売

